

令和2年度地域訓練協議会(10月実施分)で出された主な意見

	有識者	産業界(労使)	訓練実施機関	行政機関等
1 制度の周知について				
2 地域特性を踏まえた訓練設定について			ニチイ学館が行う介護の初任者研修は、現在定員がいっぱいの状況。失業者が多い中、開講するとすぐに定員が埋まる一方、都市部以外の地域では開講できないところもある。定員割れでも一人でも多くの方に職業訓練を活用し、介護に興味を持った方に受講してもらいたい。介護のマイナスイメージを払拭するために取り組んでいきたい。(吉野委員)	千葉県の介護分野の訓練状況は、長期人材育成コースの介護福祉士養成コースは国が示した目安数の中でコースを設定している。知識的習得コースの介護職員初任者研修、実務者研修は県下の労働環境を考え、なるべく多く設定したい。定員10名以下で都市部以外の地域を対象に委託費5万円を上乗せ加算し、令和3年度の委託訓練は約190コース、4,000人を見込んでいる。(中臺代理委員)
3 人材不足分野について	<p>介護のイメージアップと給与を良くすることが課題と思う。例えば、中学生の職場体験では保育園と幼稚園、介護現場は人気があるが、高校、大学と上がるにつれて変化する。保育・幼児教育と介護の人材育成について、長期的に捉えないといけないのではないか。また、中学生の職場体験で保育や介護に参加している男女の比率はどのような状況か。(明石委員)</p> <p>最後のアイデアとして、介護の分野で人間が出来るところとAIによってロボットが出来るところの棲み分けをはっきりさせることが大事。介護福祉の仕事内容も変化しているので、イメージを変えるという意味では、ロボットと共存する介護福祉の人材育成もあるのではないか。(明石委員)</p>	<p>経営者側として、介護が理由の離職は大きな問題。介護分野に人材を集める努力を継続して行うことが日本中の幸せにつながる。介護を理由とした離職は気の毒な事例が多く、介護人材を収集出来るシステムをお願いしたい。介護分野はIT化が進んでいない認識があるが、ロボット等をもっと安価で活用できるようにすれば介護分野の労働者も増えるのではないかと。(渡部委員)</p> <p>中央会では協同組合設立の支援を行っているが、最近の千葉県内の組合設立は、ほぼ外国人技能実習生受入が目的。介護に限らず様々な業種の労働力不足の補填は外国人に頼る状況である。(能美代理委員)</p>	<p>前年度よりは介護の仕事に興味を持つ外国人が多くなっており、外国人支援センターからの問い合わせも来ている状況。(吉野委員)</p> <p>介護の日には保育園や幼稚園、小学校、中学校でもイベントの開催により子供達が介護に興味を示してくれる。高齢者の疑似体験ブースを体験した子供達は、身近な家族である祖父母の身体状況の制限等による大変さに気づき、介護に興味を持つが、就職として考える場合、生徒の親が「なぜうちの子供は大変な仕事を選ぶのか」と介護職への就職に懸念を示し、理解が得られないことが教育現場から言われている。(吉野委員)</p>	<p>高校生、中学生の職場体験の実施状況は多様な職種の体験が目的で、一つに集中することはない。幅広い知識を得た中から進路選択をするとの観点で指導しており、保育や介護の職場体験に参加する生徒に男女の偏りは見られない。介護の職場体験に参加した生徒からは「大変勉強になった、また体験したい」という意見がある。(大川原代理委員)</p>

令和2年度地域訓練協議会(10月実施分)で出された主な意見

	有識者	産業界(労使)	訓練実施機関	行政機関等
4 受講者属性等を踏まえた訓練設定について		<p>就職氷河期世代については今年度の第一課題としなければならないが、コロナ問題で進んでいない。今はウィズコロナだが、アフターコロナでは労働者不足が来ると思うので、氷河期世代の活用は課題。家に籠もっている方に、いかに表に出てもらうかが大切。外に出てきてくれれば何かしら出来ることがあると思う。(渡部委員)</p> <p>就職氷河期の問題については入り口が大事だと思う。ずっと家にいた人が急に仕事をするのは、とても難しい。そのつなぎとして、訓練を実施しながら社会に参加出来るようなことを考えていただきたい。人材不足から、いずれ人材が余る状況になるのでその間に訓練を行うことが大事。(永富委員)</p> <p>現コロナ禍での就職氷河期世代の受入は、短期雇用や非正規という不安定な雇用形態の方もいる一方、職に就くことも諦めて家に引き籠もっている方もいて、かなり難しい。アフターコロナとなった時、少子高齢化という状況は変わらないので、人手不足対策のために就職氷河期世代、特に職を得ていない方々、特に家に引き籠もっている方をまず外に出し、職に就くことの重要性を教えるような訓練を行えば良いのでは。どんな職業であっても職に就くことが大切だと言うことを職業訓練で伝えられないか。(黒岩代理委員)</p>		
5 訓練実施機関について			<p>ニチイ学館でも介護の初任者研修を行っているが、今は定員がいっぱいの状況。失業者が多い中、開講するとすぐに定員が埋まってしまう一方、都市部以外の地域では開講できないところもある。定員割れでも一人でも多くの方に職業訓練を活用し、介護に興味を持った方に受講してもらいたい。介護のイメージを払拭するため、私共も取り組んでいきたい。(吉野委員)</p>	

令和2年度地域訓練協議会(10月実施分)で出された主な意見

	有識者	産業界(労使)	訓練実施機関	行政機関等
6 総論的意見について		<p>経済界から見ると、コロナ感染前までは少子高齢化が進み、各企業とも人材確保に苦勞していた。その対応が女性の活用で、結婚や出産で家庭に入った人を戻そうとか海外の人材や就職氷河期世代を活用しようとの意見があったが、新型コロナの影響により各企業とも今はどうやって雇用を維持するかが課題。人材不足の業種は出向受入など知恵を働かせているが、新型コロナの影響は雇用において非常に頭が痛い問題。(黒岩代理委員)</p> <p>これまでは雇用の確保だったが、コロナ禍においては雇用維持、こういう状況の中で助成金等で急場をしのぐということになるが、今後、雇用をどうするか。連合が行う労働相談は雇用関係だけを見れば前年比でほぼ倍増。企業の業績が厳しい中で雇い止めや内定取消などの相談。労働組合がある企業は良いが、ないところの方達が切迫しており、どうにかしなければと考えている。(永富委員)</p>		
7 その他 (上記1～6以外の意見)			<p>昨今、若者のものづくり離れ、技術の向上が図れないと言われる中、当協会ではベテラン技術者にものづくりマイスターになってもらい、中小企業や学校に出向き様々な技術指導や魅力あるものづくりの発信等を行い、関心を持ってもらう活動や、技能検定を行う際には若者の受験料減免措置を図り、受験しやすくして若者のものづくりへの士気向上の取組を行っている。(目黒委員)</p>	